

英語 検定試験2回まで可

国語 記述式は民間が採点

一〇一〇年度に大学入試センター試験から替える予定の「大学入学希望者学力評価」テストで、民間の検定試験を利用するとしていた英語について、検定試験は二回まで受けられ、結果の良い方の成績を採用する案を文部科学省が検討していることが分かった。

文科省が検討案

国語の記述式問題については、解説文字数が八十字以下のみのものは民間業者が採点する案をこれまで示していたが、両方とも民間

業者に任せることで調整している。

ただ、これらの案には省内に異論もあり、検討や修正を重ねた上で、六月に新テストの実施方針として公表する予定。

英語はセンター試験でみている「読む・聞く」力に加えて、新テストでは「書く・話す」力も評価する。

検定試験を受けるのは高校三年の四月から十一月までの間とし、浪人生が受けれる時期は別途検討する。「読む・聞く」力をみる試験は、新テストに移行した後も、大学入試センターで引き続き実施する案も出ている。

国語の記述式問題は、三問程度を出題する。試験時間は現在の八十分から延長し、記述式問題の成績は段階別で示す方針といつ。

- 英語で利用する民間の検定試験は、2回まで受けられ、結果の良い方の成績を採用する
- 英語の検定試験の結果は点数ではなく、段階別で示す方法にする
- 国語の記述式問題は3問程度で、採点は民間業者に任せることとする
- 国語の試験時間は現在の80分から延長する



大学入試改革 政府の教育再生実行会議は2013年10月、大学入試センター試験を代替とした発展レベルの達成度テストと、高校の学習到達度を測る新たなテストを導入するよう提言。中教審は14

年12月、「大学入学希望者学力評価テスト」と「高校基礎学力テスト」として導入し、知識偏重から思考力重視への転換を図るよう答申した。文部科学省の専門家会議は16年3月、評価テストの国語と数学に記述式問題を導入することなどを柱とする最終報告をまとめ、同省が制度設計を進めている。

文部科学省の検討案
ポイント